

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第3回委員会 開催日：9月22日。出席者：河西委員長，ほか 15 名。

1. 第2回湯川コロキー開催の件

来年4月アメリカのオースチン氏が俵ゴールドメダル受賞の為に来日されるので，第2回湯川コロキーを開催する予定である。

2. 日濠 Extractive metallurgy 合同シンポジウム開催の件

1980年7月で標記シンポジウムを開催する予定で，日本鉱業会と合同の代表団を組織する予定。シンポジウムの推進を図る為合同委員会を設け，本会より不破，松下各理事が委員として参画する。

編集委員会

第7回和文会誌分科会 開催日：9月1日。出席者：長嶋主査，ほか 12 名。

1. 13件の論文審査報告がなされ，照会后掲載可1件掲載決定 11 件であった。

2. 「鉄と鋼」第65年第1号(1月号)に論文10件技術報告2件，技術資料1件掲載決定した。

第7回欧文会誌分科会 開催日：9月6日。出席者：草川委員，ほか 5 名。

1. 11件の論文につき審査報告がなされ，掲載可2件照会后掲載可3件，修正依頼4件，一旦返却1件，掲載不相当1件であった。

2. 「鉄と鋼」64年14号アブストラクトより6件の研究論文，64年10号より3件の研究論文，及び「鉄と鋼」以外の国内雑誌より1件の研究論文を勧誘することとなった。

講演大会分科会 開催日：9月14日。出席者：郡司主査，ほか 19 名。

1. 第96回講演大会について

大会準備状況についての報告

2. ポスターセッションについて

今春のポスターセッションの際アンケートを行なった集計の解析を行なった。来春は会場を広くしブースの数は今春と同じ数で行なう。

3. 第99回大会討論会候補テーマについて

昭和55年春の討論会テーマの検討を行ない次回委員会で決定することになった。

共同研究会

製鋼部会

第70回部会 開催日：7月6，7日。出席者：山本部会長，ほか 116 名。

川崎製鉄(株)千葉製鉄所で開催した。本部会では，自由議題，重点議題に下記研究発表が行なわれた。

1. 自由議題

1) 設備改造	1 件
2) 溶銑予備処理	1 件
3) スラグの再利用	1 件
4) 転炉副原料	1 件
5) 吹錬改善	4 件
6) 連続鑄造	3 件
7) 炉外精錬	1 件
2. 重点議題 テーマ「取鍋内溶鋼処理技術」 発表件数	6 件

鋼板部会

第46回分塊分科会 開催日：6月1日。出席者：鈴木部会長，ほか 130 名。

第46回分科会においては下記の議題を取り上げた。

議題(I) 操業調査表

議題(II) 作業時間調査表

議題(III) 共通議題「歩留向上対策」

議題(IV) 自由議題

特別講演「扇島分塊工場の建設と操業」

特に議題(III)については庄延，精整の両歩留を取り上げ，向上対策の発表，並びに討論が行なわれた。

鋼管部会

第23回継目無鋼管分科会 開催日：9月7，8日。出席者：田中部会長，ほか 35 名。

1. マンネスマン関係

(1) 第22回の議題「ローリングスケジュール(穿孔)」に関する追加討議が行なわれた。

(2) 共通議題「ローリングスケジュール(圧延)」について，プラグミル(新日鉄)，アッセルミル(山特)，マンドレルミル(川鉄)の各担当会社よりアンケートのまとめ発表が行なわれた。

(3) 自由議題「保安全管理(品質との対比)」について各社より発表が行なわれた。

2. 熱間押出関係

(1) 共通議題「熱押スケジュール」について担当会社の新日鉄よりアンケートのまとめ発表が行なわれた。

(2) 自由議題「工具技術」について各社より発表が行なわれた。

尚，自由議題の2件については今回の討論をもとに第24回分科会において共通議題として取り上げられる。

鉄鋼分析部会

第56回化学分析分科会 開催日：8月29日。出席者：岸高主査，ほか 36 名。

1. 開催場所 神田学士会館

2. 議事概要

(1) 分析部会幹事会の経過報告として定量下限に関する各分科会の考え方、問題点、現状を討議し部会としての取扱いの検討結果を主査が説明した。

(2) 当分科会の今後の主要テーマとして、微量元素定量法の検討を種々の分析法で検討することにした。

(3) JIS 案文の確認実験として、N, Nb, Se についての実験結果が報告された。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第5回EC分科会 開催日：8月22日。出席者：山南主査，ほか7名。

1. TC17 幹事国の件

JETRO 若曾根所長からのテレックスを基に，対策を協議した。

2. PLACO に配布された資料について自由討議を行った。

第16回SC8分科会 開催日：9月6日。出席者：山南主査，ほか11名。

1. DIS の審議

バルブプレート (DIS 4974) 造船用不等辺不等厚山形鋼 (DIS 4973) はサイズ数が多過ぎ日本の実情に合わぬため反対とし，I 形鋼 (DIS 4972/II) は製造実績なきため棄権とした。なお日本ではこの形鋼の用途には H 形鋼が使用されている。

2. 国際会議対策

等辺山形鋼及び不等辺山形鋼の寸法，H 形鋼の寸法とその許容差について討議した。

第19回SC9分科会 開催日：8月28日。出席者：有賀主査，ほか5名。

1. コイルぶりの審議

第1次原案について審議し，コイル内径，コイルスリーブの追加，錫の純度，幅及び厚さ許容差，付着量の種類の追加，削除などについて日本コメントを作成することにした。

第40回SC12分科会 開催日：9月7日。出席者：三佐尾主査，ほか9名。

1. 国際会議報告

電気亜鉛めつき鋼板，耐候性鋼板，一般用及び絞り用熱延ストリップ，構造用熱延ストリップはほぼ検討を終了し，C% 0.25 以下及び 0.25 超の冷延ストリップは討議継続となった。

WG1 では一般用及び絞り用の板厚公差が決まった。

2. DIS の審議

DIS 5000 (Al めつき鋼板)，DIS 5001 (ほうろう用原板) は JIS と同等の水準にあるため賛成，DIS 5950 (シートブリキ) は日本には実績はないが，製造可能であることから賛成投票することにした。

.....

第62回分科会 開催日：8月31日，9月1日，出席者：水野主査代行，ほか9名。

1. JIS 構造用鋼の確認

工技院，鉄協，大同特殊3者打合せにより作成した最終案及び解説文一部修正案について検討し，承認された。なおHバンドの線図が一部保留となった。

2. 新記号体系の受入体制

各社から新記号への切替時期，方法，関連業界へのPR方法について意見徴取を行ったが具体案の作成は次回に持越した。

3. 審議経過報告書

内容について検討し，修正を行った。

鉄鋼二次製品生産設備調査委員会

第1回委員会 開催日：8月30日。出席者：松下委員長，ほか39名。

鉄鋼二次製品生産設備の実態調査は4年毎に実施され過去に通産省重工業局において3回実施された後を受けて4回目から民間に委託され当会が主宰して前回49年12月調査で計7回に及んでいる。今回は8回目で53年12月末日の期日で実施せんとするものである。

当会ではこの事業実施に当り日本小型自動車振興会より補助金の交付を受けることが決定している。

今回は通産省製鉄課と二次製品関係団体の全面的協力を得て昭和53年度鉄鋼二次製品調査委員会の組織が完了したので第1回の会合をもつた。参加者は委員21名，団体関係事務局10名，幹事ほか9名，計40名であった。当日の議事次第は次のとおりである。

1. 委員長挨拶 (松下鉄鋼協会副会長)
2. 会長挨拶 (代理 田畑専務理事)
3. 通産省挨拶 (林製鉄課長)
4. 経過報告 (萩原亜鉛鉄板会専務理事)
5. 調査要領説明 (製鉄課紙谷係長)
6. その他

鉄鋼基礎共同研究会

高炉内反応部会

第5回部会 開催日：7月12日。出席者：大森部会長ほか23名。

1. 場所 神田学士会館 302 号室

2. 議事概要

(1) 高炉解体調査の説明と質疑

神鋼・尼崎第2高炉と住金・小倉第2高炉の解体調査の説明があり，それに基づき活発な討論があつた。

(2) 北大・石井委員より鉍石類の還元，軟化，溶融挙動について，映画をまじえ説明があり引続き討論を行った。

(3) 各社より提出された高炉解体調査の資料内容に対する質問事項の討論並びに高炉解体調査研究項目の研担当者の選出を行った。